

2011年度

新横浜駅前 トイレ診断士の廁堂

グッドトイレ選奨 受賞!

2011年11月12日、第27回全国トイレシンポジウムが横浜市内で開催されました(日本トイレ協会、神奈川大学 共催)。これは、各界の専門家から一般の方までが参加し、トイレに関する研究報告や討議を行います。

27回目となる今年は、3.11の東日本大震災を通して、災害とトイレについても活発な意見交換が行われました。

そして、目玉のイベントの一つに『グッドトイレ選奨』があります。これはトイレ文化への様々な取り組みに対し、投票、審査が行われ選定されます。今回12件が受賞した中、『新横浜駅前 トイレ診断士の廁堂』の取り組みは、最多投票数で受賞となりました。

グッドトイレ選奨

株式会社 アメニティ様

貴社の取り組み、これからのトイレのあり方に対する卓越した試みは世界のトイレ文化の向上に寄与する優れたもので他の模範となります。よって2011年度のグッドトイレ選奨とします

平成23年11月12日

横浜国際トイレフォーラム2011 第27回全国トイレシンポジウム 実行委員長 高橋志保氏 日本トイレ協会 会長 平田 純一

▲グッドトイレ選奨 認定証

ハネオくん

間違!探しワズ!

AとBのイラストに違うところが5箇所あります。

「新横浜駅前 トイレ診断士の廁堂」を見学に来たハネオくんと妹のちっち。天気も良いし、絶好のトイレ日和になりました!

A

トイレ診断士の廁堂

かわやどう発見!

B

トイレ診断士の廁堂

かわやどう発見!

間違いは全部で5箇所。あなたはいくつ見つけられますか!?

正解は編集後記の下に掲載しています。

トイレ

第1回

I LOVE TOILET! I LOVE TOILET! I LOVE TOILET!

トイレの魅力、その音

佐藤 満春 (さと・みつはる)

お笑いコンビきどきキャンプの片割れ。趣味のトイレ好きが広がりをもせ、2011 年 11 月電子書籍「佐藤満春のトイレ公論」を発売。自らもトイレ掃除に参加するなど自他共に認めるトイレ好きである。日本トイレ協会会員

今回からこちらでコラムを書かせてもらう、きどきキャンプ佐藤満春です。そんな僕の数少ない趣味の一つが「トイレ」なんです。趣味が高じてトイレイベントを開催したり、トイレ電子書籍を出したりしています。

そもそも何でトイレにこんなにはまったのか!という話。「プロジェクトX」という番組でウォシュレットを開発された本村さんの放送回を見た僕は、「トイレにはすごいドラマがある!」「よし、ショールームへ行こう!」と思ったのがそもそものきっかけです。

そこでタンクレスタイプのトイレの形に惹かれ、陶器であるという存在にも惹かれ、トイレに夢中になるにはそう時間は要りませんでした。そして僕が一番注目したのは「音」です。古いタイプの流水音しかイメージのなかった僕の耳に、飛び込んできたのは最新式のタンクレスタイプの清らかな流水音。なんだ!この心地よい音は!こんな静かな音で流れるのか!わー!!

感動した僕はすぐさまレコーダーで流水音を録音し、iPodに入れてその音を持ち歩きました。シャッフル機能で聴いたりすると大好きなロックバンドの名曲の直後に「ジャー」と流水音が聴こえてきたりもします。技術革新の波をまず鋭く感じる事ができたのはその「音」だったのです。

音から入った僕のトイレ旅ですが、こちらでは今後皆さまと一緒にトイレについて、時には真剣に、時には楽しく、トイレ談義したいと考えております。それでは次回、またトイレな話でお会いしましょう!

ジャー。

編集後記

新年をお迎えし、2年ぶりにA3サイズでリニューアルスタートです。中面ではトイレ博士・西岡先生の文献をできる限りご紹介させていただきます。発行されたのは随分と前ですが、数少ないトイレ文化に関する文献で、とても面白く興味深い内容です。また、トイレ芸人の佐藤満春さんに、連載コラムで紙面を盛り上げて頂く事になりました。本年も宜しくお願い申し上げます。(雑撃弾治)

ハネオくん

間違!探しワズ!

こたえ合わせ

1.右側の雲の形

2.屋根の長さ

3.ちっちの頭のリボン

4.ハネオくんの洋服(右肩のしわ)

5.廁堂の漢字が「道」

A

トイレ診断士の廁堂

かわやどう発見!

B

トイレ診断士の廁堂

かわやどう発見!

コンナ イ トイレ

アメニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110

本誌は森林保護のため、再生紙・ベンツルオイルインクを使用しています。

アメニティネットワーク かわや版

トイレを楽しくする新聞

かわや版

2012新年号 Vol.35

新横浜に新名所!?

新横浜駅前

トイレ診断士の廁堂

かわや どう

▲Before

▲After

新横浜駅

ビル

駅ビル

バスロータリー

▲住所:横浜市港北区新横浜2-1

男子入口

女子入口

2011 年 11 月、新横浜駅前の公衆トイレに『新横浜駅前 トイレ診断士の廁堂』という看板が掲げられました。これは、横浜を本部にトイレの総合メンテナンスを全国展開している、(株)アメニティが命名したものです。

横浜市では、ネーミングライツとして多くの実績があるものの、地元企業が行う地域貢献型のネーミングライツとしては初めての事例として大変期待を寄せてくれています。

アメニティとしては、渋谷区の公衆トイレに続き、第2段のネーミングライツとなりますが、快適性はもちろんのこと、エコロジーなトイレをテーマに取り組みました。2週間にわたるリ

ニューアル工事では、汚れやにの改善、自動機器や LED 照明器具の設置を行うなど、既存の設備を活かした形で生まれ変わりました。また、契約期間の3年間は、毎月の定期診断維持管理とパトロールを実施していきます。これらのリニューアル費用や、トイレの維持管理費用が、ネーミングライツの対価となっています。

今後は、廁堂の快適性の維持とともに、情報発信、コミュニティの場として地域貢献をしてまいります。

【リニューアル工事の主な内容】

・外壁、内壁、屋根部の洗浄

・天井部のペンキ塗り直し

・和式便器を洋式便器に交換

・便器、洗面器の汚れ除去

・ガラ スコーティング

・大便器ブース扉の交換

・床面は殺菌性・消臭性のあるタイル「マスクシールドタイル」に交換

・電球をLEDに交換

・大きなビクトサイン設置

☆以下のアメニティ製品の設置

・尿石防止剤 ビヒタリア

・森林浴消臭剤 メンブレン

・節水型自動水栓 セセラギ

・手指乾燥機 風の森造

・小便器用自動水栓 センサV

・便座除菌クリーナー V-ZERO

▲Before

▲After

▲Before

▲After

※詳しくはアメニティネットワークHPをご覧ください。

http://www.amenity-netw.ork.net/

トイレ博士 西岡秀雄先生の 文献から学ぶトイレ文化

【西岡秀雄先生 プロフィール】
●日本トイレ協会初代会長・名誉会長
●慶応義塾大学名誉教授
●大田区立郷土博物館元館長



このコーナーでは、トイレ博士 西岡秀雄先生が遺された文献の中から、トイレ文化に関する興味深い内容を、皆さまにご紹介するものです。

第1回 【世界の2/3の人たちは】世界トイレ事情(1986.8.27)より抜粋

世界の2/3の人たちは

たかがトイレットペーパーと申しますが、これは大変なことでした、まして重要な事は現在、皆さんが日本での生活があたり前になり、トイレへ行ったら紙でふかなければならない、と思い込んでいる所が問題なのです。現実に、現在地球上で紙で始末している人口は、正確な数字は出ませんが、3分の1以内です。つまり、紙で始末していない人が3分の2以上いる訳です。

その3分の2以上の人びとは、毎日どうしているのか、ということです。すが、だいたい紙を使わない人々には、13種類あると思っていたいただきたいのです。

【指と水】

1番目は、自分の指と水で始末する人々。具体的には、インドとかインドネシアあたりの人々です。



自分の指で始末するというのは、指の後始末さえ良ければ良いと思います。紙でふくというのは、顕微鏡的にみれば、紙でこすりつけているのです。異物で自分の皮膚をこするよりも、自分の指でこするなら、皮膚と皮膚ですから、本当はその方がよい訳です。問題は、ふいてしまった方の指の始末をしっかりとくれなければ困るということです。だいたい皆、左手しか使いません。タイ人も一般に、みんな左手です。

【指と砂】

2番目は砂と指を使う地域です。これはサウジアラビア、クエート等、だいたい石油の産油国です。



砂というと皆さん、痛いのではないかとお思いになるかもしれませんが、非常に細かい、砂嵐でもまれた砂ですから、日本で言えば砂時計の中に入れるような本当に細かいものです。これを缶詰めに入れて、トイレの隅に置いてあります。

用をしたら、缶詰めの砂の中に指をつつまみます。暑い国なので指が汗ばんでいるので、指にきな粉のように砂がつきます。それでお尻をふいて、あとは手をはらい、お尻についた砂は歩いていれば落ちてしまう訳です。

ただし、これは中流以下で、上流家庭になると水で洗います。指と砂と水があれば、上流社会と思っていたければよい訳です。

【小石】

3番目は、小石を使う地域で、エジプトやシリアのあたりです。

皆さんはエジプトと言うと、三角形のピラミッドや、その傍らをラクダが1列になって歩く姿が美しく夕陽に映え、シルエットになっている風景を思い浮かべるでしょう。日本人は物事を非常に情緒的に見る国民ですから無理もありますが、しかし、ラクダを曳いている連中は、足元に手ごろな小石がないか、と見ながら歩いているのです。

拾った小石をすぐ使ったら跳び上るほど熱いですから、必ずポケットに入れておき、本番の時使う訳です。

皆さんがエジプトへ行って、手ごろな小石が砂漠にあったら、必ず使われた小石だと思って結構です。しかし、決して汚くありません。ものすごい熱射で消毒されていますから。小石を使う国が、かなり広くアフリカに広がっています。



【土板】

4番目は土板を使う地域です。

石ころは非常に熱をもちますが、土板は日本でいえば、植木鉢のかげらの角を丸くしたようなもので、実物を見てもわかりますように表面がザラザラしてふき易いのです。

余談ですが、面白いことに有名なモンハンジョダロの遺跡からも、これが沢山出土していた訳ですが、ヨーロッパの考古学者はまさかトイレの紙がわりに使われていた物とは思わないで、神様にさしあげるビスケットの模造品だと思って、長い間クレイケイクという名前を使っていました。

その後、私が学研から出した子供向けの「古代遺跡の秘密」という漫画の本の中で、世界のいろいろなトイレの始末の方法があるんだということを書きましたが、皆さん、くれぐれも、これはビスケットのかわりではありませんので…。

【木の葉】

5番目が、木の葉を使う地域で、これはかなり広く広がっております。日本からソビエト、あらゆる所に広がっております。

戦争直後、ソ連に抑留された方はご存知かもしれませんが、トイレットペーパー等、支給してくれませんかから使役に出かけた帰り、必ず紙がわりの手ごろな木の葉を集められたことをご記憶の方もいるかもしれません。

ことのついでに、日本で1番良く使われたのが落葉(ふきの)で、例えば平安時代、紫式部たちもこれを使っておりました。「ふく」という字は「落」という字と同じ語源になっていますが、これは有名な言語学の金田一京助教授が以前から言っておられる



とおりです。それ以外にも、沖縄では俗にユウナ、植物学ではオオバマボウという葉などが使われているそうです。

【麻・稗・粟】

6番目が、麻(あさ)、稗(ひえ)、粟(あわ)の茎を使う方法で、日本、その他にあります。

【藁】

7番目が藁(わら)を使う所です。これは日本、岩手県、その他の地方です。我々の若い時代にも、旅行すると藁が竹の筒にささっているのをよく見ました。



【木片・木の棒・経木】

8番目が木片、木の棒、経木の割ったようなものです。日本とか中国で、呼び方もいろいろとございます。

ロープ

9番目は藁を編んだロープを使う所です。

ロープの使い方に関しては、私の知っている範囲では2種類あります。1つは中国式のロープトイレで、園という字を用い、「こん」とか「ごん」とか発音しています。

黄土層の涯ぶちに小屋があり、下には豚をかう小屋があります。井戸のように掘り、下がななめにカットしてあり、便所のハリから3列くらいロープがぶら下がっています。電気がありませんので、夜などは足を踏みはすさないように手さぐりでロープをさがすのです。3本ありますし、下に結び目もついていますから、しっかりつかまれば踏みはすすこともありません。下では足音を聞きつけた豚が待っています。

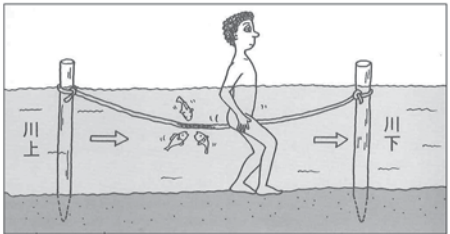
用が済んだらこのロープのひとつを使ってお尻をふく訳です。そうしますと、日本人はそんなことをしてその後、次の人が行ったらどうするんだ、と思いますが、それは日本的な考え方です。

中国は、日本のようなモンスーン地域ではなく、ものすごく乾燥していますから、直後に行っても、もう乾燥しています。ですから、ロープを日本で言えば神社の鈴を鳴らすように振れば、パラパラと汚物は落ちてしまします。我々が思う程きたなくなく、誠にうまくできています。

もちろん我々が普通の観光旅行で泊

る所には、きちんとトイレが用意してありますが、ちょっとコースからはずれると、殆どこういう状態です。だいたい北部の5〜6省は同じです。

同じロープトイレでも、アフリカのは川の中にトイレがあります。川の川上と川下に木の杭を打ち、水面下の見えない所にロープが張ってあります。用をする時は、川上に向かいロープにつかまって用をたします。汚物は下流に流れます。用が済んだら川下に向きをかえて、ロープにまたがるのです。すると、水流で身体は前にすべり、ロープに汚れが着き、そこに魚が群って食べるため、次の人が来た時には、きれいになっている訳です。完全な水洗式です。



私が、連続1週間、NHKテレビで世界のトイレ事情を講演したことがあるんです。その時に、アフリカを最後にするから、何とかその現物のロープを持って来てくれ、と現地取材班にたのんだ訳ですが、使っているのを取ってくる訳にもいかないので、このロープだけが、私のコレクションの中には今だにないのです。これが手に入ったら、私はトイレットペーパーのコレクションをよそうと思っているのですが、実証主義者といたしましては心残りなのです。

【トウモロコシ】

10番目はアメリカ合衆国で、これはトウモロコシの毛です。もちろん、コーンベルト地帯の農家ですが、ポリバケツの中に毛が沢山つまっています。

皮はすべるからだめです。トウモロコシの毛は、つかみ方が悪いとちょっと問題ですが、冷やっこくて調子の良い物です。

アメリカで、トウモロコシの毛を使っているなどということは、日本の教科書にもガイドブックにも、ひと言も載っていません。これは、自分でアメ



リカ大陸を車で横断したからわかるのであって、そういう“ぬけ”というか、日本人は皆、良いホテルに泊まりますから、そこでアメリカ人は皆、キンバリクラーク社等の良い紙を使っていると思い込んでしまうのです。それではやはりいけないと思います。

トイレットペーパーに何をしようが、それは勝手ですが、私はやはり、経済とか政治とか国防とか、そういう重要な問題について、日本人は、認識が甘い点がありはしないかと非常に痛切に感じていました。

それで、人文地理学を大学で教えていた現役の時、やめる10年位前からトイレットペーパーは教材になると思い利用しました。初めは、いいかげんに集めていたのですが、本気になって黒板にはりますと、初めて学生たちは、世の中にはこんなにも違いがあるのかと認識しますので、良い材料になった訳です。

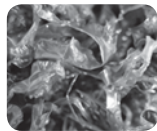
【木の皮】

11番目はネパールで、木の皮を使います。ちょうど白樺(しらかんば)の皮の裏のようなものが、バサバサと重ねてあり、風で飛ばないように小石をのせて置いてあります。木の皮ですから非常にさけやすいので、方向を変えて3枚位重ねて使わないと、うまくいかないでしょう。



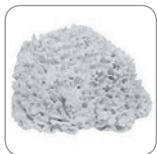
【海草】

12番目は海草で、これは地中海沿岸。日本では新潟等、海岸で使われました。



【海綿】

13番目は海綿を使う所で、これは歴史の本ではローマ帝国のあたりから使われています。ただし、1回使った物を洗ってもう1度使うかどうかは、まだ判っていません。



だいたい以上の13種類の物を、世界の3分の2以上の人は使っている訳です。従って、紙を使っている人は、世界の3分の1ないのだということを覚えておいていただきたいと思います。